

卒業生に対する 学修成果に関する調査報告

令和4年4月
志學館大学 学務委員会
志學館大学 IR室

1. 趣旨

学生が本学での4年間の学修の成果をどのように受け止めているかを調べるために、2021年度卒業生全員を対象に、アンケート調査を実施した。

本学のディプロマ・ポリシー（以下、DPという。）とそれに基づくカリキュラムは、2018年度入学者より大幅に改訂された。従って今回対象とした卒業生は、1年次から新カリキュラムの下での教育を受けた初めての学年ということになる。

本報告において、特に断りのない場合、[]内の数値や記述は、卒業生に対して実施した過去の同様の調査（以下「2020調査」「2019調査」「2018調査」という）における値を示し、同順で直近のものから表記してある。

2. 資料と調査方法

アンケートの設問は14項目とした。これらの項目は、現在のDPを基に6つのカテゴリーに分けられるので、DPカテゴリーと対応させて以下に示す。これらの項目は、2018調査以来、変えていない。本学のDPは、巻末に付録として示してある。

DP1	Q1. 个性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性
DP2	Q2. 人類の文化、社会と自然に関する教養
	Q3. 物事を科学的に、論理的に考える方法や力
	Q4. コンピュータの操作方法や情報処理技術
	Q5. コミュニケーションの能力
	Q6. 自ら学ぶことが楽しく、喜びであると感じる姿勢
DP3	Q7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能
	Q8. 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力
DP4	Q9. 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え
	Q10. 生涯にわたって学習を続けていく意思や力
DP5	Q11. 倫理観
	Q12. 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識
DP6	Q13. 多様な言語・社会・文化に対する理解
	Q14. 国際人として活躍する素地

各項目について、「大学でのさまざまな学修によって、設問の能力や知識を身につけたと感じているか」を問い、「4. 大変身についてた」、「3. 身についた」、「2. 少しは身についた」、「1. 身につかなかった」の4つの選択肢から回答を求めた。

調査は、ユニバーサルパスポートシステムを用いて行った。なお、卒業式の日までに未回答であった者を対象として、付加・補完的に紙ベースの追加調査も行った。

3. 分析結果

3.0 回答者の属性

評価対象者（卒業生）は312 [295、270、256]人で、回答率は、93% [90%、84%、89%]で本調査開始以来、最も高くなった。（表1）。学科ごとの回答率は、心理臨床学科（以下、心臨）94%、人間文化学科（以下、人文）100%、法律学科（以下、法律）89%、法ビジネス学科（以下、法ビ）90%であった。

回答の方法は学科間でやや相違はあるものの全体では、82% [80%]がユニパを通じて行っており、データ収集の方法としては妥当であった判断できる。紙ベースによる回答割合が11% [10%（心臨8% [10%]）、人文16% [2%]、法律9% [12%]、法ビ19% [16%]）、無回答が7% [10%]であった（表1（補足））。

各学科及び学士課程全体（以下「全学」という。）の学生の回答の平均値、標準偏差、最頻値を表2～15に示す。なお、以下の結果を理解するために、すべての回答の平均値（SD）は

3.12(.58) [3.12(.58)、3.14] であったことに留意されたい。

表1 調査対象及び回答者の数

学科	対象学生数	回答者数	回答率 (%)
心理臨床	127 [111、105、97]	120 [104、103、80]	94 [94、98、82]
人間文化	57 [52、46、40]	57 [48、40、37]	100 [92、87、93]
法律	97 [87、75、68]	86 [75、49、62]	89 [86、65、91]
法ビジネス	31 [45、44、41]	28 [38、31、39]	90 [84、70、95]
合計	312 [295、270、246]	291 [265、226、218]	93 [90、84、89]

表1 (補足) 学科別の回答方法の比較 (%)

学科	ユニパ	紙	無回答
心理臨床	87 [84]	8 [10]	6 [6]
人間文化	84 [90]	16 [2]	0 [8]
法律	79 [75]	9 [12]	11 [14]
法ビジネス	71 [69]	19 [16]	10 [16]
合計	82 [80]	11 [10]	7 [10]

3.1 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性

この設問は、本学の建学の精神に関連するものである (表2)。

各学科の平均値は、全学平均値である3.2 [3.2、3.2、3.0] 近傍にあり、最頻値は、全学およびすべての学科で3であった。全学の平均値は、2019年調査から3年続けて3.2となった。

表2 Q1に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.74)	3	3.1(.86)	3	3.2(.81)	3
人間文化	3.0(.76)	3	3.2(.59)	3	3.4(.65)	4
法律	3.0(.71)	3	3.3(.66)	3	3.3(.78)	4
法ビジネス	3.0(.79)	3	3.2(.76)	3	3.2(.64)	3
全学	3.0(.74)	3	3.2(.77)	3	3.2(.75)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.72)	3				
人間文化	3.1(.74)	3				
法律	3.3(.70)	3				
法ビジネス	3.2(.63)	3				
全学	3.2(.71)	3				

3.2 人類の文化、社会と自然に関する教養

この設問は、主に教養教育あるいは共通教育に関連するものである (表3)。なお、人間文化学科では、専門教育全体とも関連していると見なせる。

全学での平均値は3.1 [3.1、3.1、2.9] で、学科間では、人文が3.3 [人文3.4、法律3.3、

人文3.1]でもっとも高く、人文は過去4年間で3回最も高くなっていた。心臨では3.0 [法ビ2.9]と低かった。最頻値は、全学及びすべての学科で3であり、Q3、Q8、Q9 [Q2、Q6、Q13]とともに学科間の差異が大きい項目であった。

表3 Q2に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.75)	3	2.9(.83)	3	3.0(.85)	3
人間文化	3.1(.89)	3	3.1(.76)	3	3.4(.67)	4
法律	2.8(.75)	3	3.3(.71)	3、4	3.1(.69)	3
法ビジネス	2.8(.76)	3	3.2(.72)	3	2.9(.74)	3
全学	2.9(.77)	3	3.1(.79)	3	3.1(.77)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.73)	3				
人間文化	3.3(.73)	3				
法律	3.1(.71)	3				
法ビジネス	3.1(.81)	3				
全学	3.1(.74)	3				

3.3 物事を科学的に、論理的に考える方法や力

全学での平均値は3.1 [3.1、3.1、3.0]で、学科間の差異が最も大きな [小さい] 項目の1つであった (他にQ2、Q8、Q9) (表4)。最頻値は、全学及びすべての学科で3であった。

表4 Q3に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.86)	3	3.0(.80)	3	3.1(.86)	3
人間文化	3.1(.88)	3	3.2(.75)	3	3.1(.79)	3
法律	3.0(.86)	3	3.3(.62)	3	3.2(.77)	3
法ビジネス	3.0(.84)	3	3.1(.83)	3	3.1(.71)	3
全学	3.0(.85)	3	3.1(.77)	3	3.1(.80)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.77)	3				
人間文化	3.0(.78)	3				
法律	3.1(.71)	3				
法ビジネス	3.3(.66)	3				
全学	3.1(.78)	3				

3.4 コンピュータの操作方法や情報処理技術

全学での平均値は3.0 [2.9、3.0、2.9] で、やや低かった設問2つ（他にQ14は2.7）の中の1つである（表5）。学科間の差異はほとんどなかったが、人文がわずかに高かった。最頻値は、法律で2 [3、4同数] で、全学及びその他の学科では3であった。

表5 Q4に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.79)	3	2.9(.78)	3	3.1(.77)	3
人間文化	3.1(.74)	3	3.0(.82)	3	3.1(.78)	3
法律	2.9(.87)	3	3.0(.82)	3、4	2.8(.89)	2
法ビジネス	2.8(.87)	2	3.1(.70)	3	2.7(.65)	3
全学	2.9(.82)	3	3.0(.78)	3	2.9(.80)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.79)	3				
人間文化	3.1(.79)	3				
法律	3.0(.82)	2				
法ビジネス	3.0(.88)	3				
全学	3.0(.81)	3				

3.5 コミュニケーションの能力

平均値は、人文で3.1で全学及び他の学科では3.2となり、例年と同様に平均値は比較的高くなった（表6）。過去2カ年では、学科間の差異が大きい項目であったが、2021 調査では学科間の差異が小さい項目となった（他にQ4、Q7、Q10、Q11、Q13、Q14）。法学部2学科では最頻値が4であった。

表6 Q5に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.80)	3	3.0(.87)	3	3.0(.90)	4
人間文化	3.2(.78)	3	3.2(.71)	3	3.4(.84)	4
法律	3.0(.85)	3	3.6(.64)	4	3.4(.76)	4
法ビジネス	3.1(.90)	4	3.2(.67)	3	3.2(.65)	3
全学	3.1(.82)	3	3.2(.80)	4	3.2(.83)	4

学科	2021 調査		2019 調査		2018 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.77)	3				
人間文化	3.1(.75)	3				
法律	3.2(.81)	4				
法ビジネス	3.2(.83)	4				
全学	3.2(.78)	3				

3.6 自ら学ぶことが楽しく、喜びであると感じる姿勢

全学の平均値は3.2 [3.2、3.3、3.1] と、例年平均値が高い設問のひとつであるが、学科間では、法律が3.3 [人文が3.4、法律3.4] と高く、法ビ3.1 [法ビ2.9、法ビ3.1] で低かった(表7)。

表7 Q6に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.84)	4	3.2(.78)	3	3.2(.76)	3
人間文化	3.2(.89)	4	3.3(.73)	4	3.4(.67)	3
法律	3.1(.76)	3	3.4(.73)	4	3.2(.75)	3
法ビジネス	3.2(.79)	3	3.1(.93)	4	2.9(.77)	3
全学	3.1(.81)	3	3.3(.78)	4	3.2(.75)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.70)	3				
人間文化	3.2(.78)	3				
法律	3.3(.76)	4				
法ビジネス	3.1(.77)	3				
全学	3.2(.74)	3				

3.7 専門分野や所属する学科の専門知識や技能

全学の平均値は3.3[3.2、3.3、3.2] で、2021 調査では平均値が最も高い項目であった。学科間では、心臨と法ビが3.3と高く、他の2学科3.2と低かったが、学科間の差異は小さかった。(表8) 最頻値は心臨が4、その他の学科及び全学では3だった。

表8 Q7に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.3(.72)	4	3.2(.76)	4	3.2(.83)	4
人間文化	3.0(.82)	3	3.3(.72)	3	3.4(.74)	4
法律	3.2(.75)	3、4	3.4(.73)	4	3.1(.85)	3、4
法ビジネス	3.1(.83)	4	3.3(.78)	4	3.0(.72)	3
全学	3.2(.77)	3	3.3(.74)	4	3.2(.81)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.3(.70)	4				
人間文化	3.2(.71)	3				
法律	3.2(.75)	3				
法ビジネス	3.3(.60)	3				
全学	3.3(.71)	3				

3.8 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力

この設問は、課題発見・解決型教育やアクティブラーニングに関連するものである(表9)。

平均値は、全学では3.1 [3.1、3.1、3.0] で、この3年間でほぼ変化はない。2020 調査では学科間の差異がもっとも小さい項目であったが、2021 調査では、Q2、Q3、Q9 と共に学科間差異の大きな項目であった。法学部2 学科がともに3.2 と高く、人文が2.9 と低かった。最頻値は全ての学科で3 であった [3、3、3]。

表9 Q8に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.75)	3	3.0(.76)	3	3.1(.81)	3
人間文化	3.0(.83)	3	3.1(.74)	3	3.2(.69)	3
法律	3.1(.78)	3	3.4(.69)	3	3.1(.88)	3
法ビジネス	2.9(.79)	3	3.3(.58)	3	3.1(.69)	3
全学	3.0(.78)	3	3.1(.73)	3	3.1(.79)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.70)	3				
人間文化	2.9(.66)	3				
法律	3.2(.68)	3				
法ビジネス	3.2(.77)	3				
全学	3.1(.70)	3				

3.9 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え

この設問は、主にキャリア教育及び職業観の涵養に関連するものである(表10)。

平均値は、全学では3.2 [3.3、3.2、3.1] で、学科間の差異はすべての設問の中で最も大きかった(他にQ2、Q3、Q8)。最頻値は人文を除き、全学を含めて他の3 学科全てで4 だった。全学の最頻値が4 となった唯一の設問であった。

表10 Q9に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.83)	3	3.1(.83)	4	3.2(.86)	4
人間文化	3.1(.88)	3	2.9(.84)	3	3.3(.69)	3、4
法律	3.1(.85)	4	3.6(.61)	4	3.4(.67)	4
法ビジネス	3.3(.85)	4	3.4(.66)	3、4	3.3(.69)	3
全学	3.1(.84)	4	3.2(.79)	4	3.3(.76)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.84)	4				
人間文化	3.0(.88)	3				
法律	3.3(.86)	4				
法ビジネス	3.3(.82)	4				
全学	3.2(.85)	4				

3.10 生涯にわたって学習を続けていく意思や力

この設問は、生涯学習能力の涵養に関連するものである（表 11）。

平均値は、2020 調査に引き続き、すべての学科で、全学平均値である 3.2 [3.2、3.2、3.0] 近傍にあり、学科間の差は小さかった。最頻値は、全学及び全ての学科で 3 だった。

表 11 Q10 に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.85)	3	3.2(.80)	3	3.2(.83)	4
人間文化	3.1(.88)	3	3.3(.75)	4	3.3(.68)	3
法律	3.0(.86)	3	3.4(.67)	4	3.2(.81)	4
法ビジネス	3.2(.94)	4	3.2(.78)	3	3.1(.71)	3
全学	3.1(.87)	4	3.2(.76)	3	3.2(.78)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.2(.74)	3				
人間文化	3.1(.72)	3				
法律	3.1(.81)	3				
法ビジネス	3.2(.74)	3				
全学	3.2(.76)	3				

3.11 倫理観

平均値は、心臨及び法ビが 3.3 で高く、人文が 3.1 で低かった（表 12）。最頻値は心臨が 4、法律が 3 と 4、全学その他 2 学科は 3 だった。

表 12 Q11 に関する統計的代表値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.90)	3	3.2(.81)	3	3.2(.82)	4
人間文化	3.1(.88)	3	3.1(.67)	3	3.1(.78)	3
法律	2.9(.83)	3	3.2(.62)	3	3.2(.76)	3
法ビジネス	3.0(.78)	3	3.3(.68)	3	3.1(.70)	3
全学	3.0(.85)	3	3.2(.73)	3	3.2(.78)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.3(.75)	4				
人間文化	3.1(.81)	3				
法律	3.2(.74)	3、4				
法ビジネス	3.3(.70)	3				
全学	3.2(.76)	3				

3.12 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識

平均値は、法律が 3.2、法ビで 3.3 と相対的に高く、人間関係学部 2 学科で低かった（表

12)。最頻値は法律が4で、全学部及びその他の学科は3だった。

表 13 Q12に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.9(.87)	3	3.0(.93)	3	3.0(.89)	3
人間文化	3.1(.86)	3	3.0(.77)	3	3.2(.83)	3
法律	3.0(.79)	3	3.3(.72)	4	3.3(.77)	4
法ビジネス	3.1(.87)	3	3.2(.82)	3	3.3(.86)	4
全学	3.0(.84)	3	3.1(.85)	3	3.2(.84)	4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.1(.78)	3				
人間文化	3.1(.81)	3				
法律	3.2(.88)	4				
法ビジネス	3.3(.70)	3				
全学	3.1(.81)	3				

3.13 多様な言語・社会・文化に対する理解

この設問は、異文化理解、多文化共生と呼ばれる領域に関連するものである（表 14）。

全学の回答の平均値は3.1 [3.0 [3.2, 2.9] であり、いずれの学科も全学平均の近傍にあり、学科間の差異が少ない項目であった（他に Q4、Q5、Q7、Q10、Q14）。最頻値は全学及び全ての学科で3だった。

表 14 Q13に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.8(.89)	3	3.1(.89)	4	2.9(.89)	2
人間文化	3.2(.83)	4	3.2(.74)	3	3.4(.68)	4
法律	3.0(.80)	3	3.2(.77)	3	3.0(.82)	3
法ビジネス	3.0(.81)	3	3.3(.79)	4	2.8(.92)	3
全学	2.9(.85)	3	3.2(.82)	3、4	3.0(.86)	3

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	3.0(.72)	3				
人間文化	3.1(.73)	3				
法律	3.1(.82)	3				
法ビジネス	3.0(.92)	3				
全学	3.1(.77)	3				

3.14 国際人として活躍する素地

この設問は、いわゆるグローバル人材育成に関連するものである（表 15）。

全学の回答の平均値は2.7 [2.6、2.8、2.6] で、過去3カ年の調査と同じく全設問中でもっと

も低かった。過去3カ年の調査では、学科間の差異が大きい設問であったが、2021調査ではいずれの学科の平均値も全学平均近傍にあり、学科間の差異が小さくなっている。またいずれの学科もすべての設問の中でもっとも低い平均値となった。最頻値は、心臨が2、人文と法ビが3、法律が3と4同数であった。心臨は4年連続で2であった。複数の学科で最頻値に2が出現するのは、この項目だけだった(2年連続)。

表 15 Q14に関する統計的代表的値

学科	2018 調査		2019 調査		2020 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.4(1.03)	2	2.5(.99)	2	2.5(.96)	2
人間文化	2.9(.95)	3	2.8(.78)	3	2.9(.89)	3
法律	2.6(.99)	2	2.9(.90)	3	2.7(.94)	2
法ビジネス	2.7(.85)	3	3.0(.78)	3	2.6(.89)	3
全学	2.6(.99)	3	2.8(.93)	3	2.6(.94)	3、4

学科	2021 調査		2022 調査		2023 調査	
	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値	平均値(SD)	最頻値
心理臨床	2.7(.85)	2				
人間文化	2.8(.94)	3				
法律	2.7(.92)	2、3				
法ビジネス	2.7(1.01)	3				
全学	2.7(.90)	3				

4. まとめ

4.1 設問項目ごとの結果のまとめ

本調査では、全回答数 4074 [3710、3162、3052] のうち 44% [41%、43%、41%] を選択肢 3 が占め、また設問ごとの回答平均値の大半が 3.0±0.3 程度にあるという過去3カ年間の調査と同様、「中庸」的な結果であったが、ごく少数ではあるが、それら以外(平均値3から離れた値であったり、最頻値が2や4であった場合など)の事項から、DPに掲げる教育達成目標の実現度を学生がどのように感じているか、ある程度浮き彫りにできたと考える。

全学で回答平均値が高く、全学最頻値4、学科最頻値4が多い設問は、学生の達成感が高いと判断した。この群には、2020調査では「コミュニケーション能力(Q5)」、「専門知識や技能(Q7)」、「職業観(Q9)」、「地域貢献意識(Q12)」と要約できる項目が、2019調査では「自ら学ぶ姿勢(Q6)」、「専門知識や技能(Q7)」、「職業観(Q9)」が入っていたが、2021調査では「職業観(Q9)」だけであった。今回、全学最頻値4であった設問はQ9だけであったため、この条件を外すと、「コミュニケーション能力(Q5)」が複数の学科で最頻値4となっている。

一方、回答の傾向が上記と逆の場合は、達成感が低いと判断できる。これには、「国際人として素地(Q14)」が当てはまり、2020調査及び2019調査と同じであった。ただしQ14はこれまでと同様に全学でも学科別でも標準偏差も総じて高く、個人差が大きい観点と言える。

回答平均値の学科間での差が小さく、全学での標準偏差が大きくない設問は、比較的全学一様な教育になっていると判断した。この群には、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」、「コミュニケーション能力(Q5)」、「専門知識や技能(Q7)」、「生涯学習能力(Q10)」、「異文化等の理解(Q13)」が入る。これには2020調査では「科学的論理的思考力(Q3)」、「問題発見・解決能力(Q8)」、「倫理観(Q11)」が入っており、また2019調査では、「個人的かつ堅実な人間性、自主性、創造性(Q1)」、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」、「専門知識や技能(Q7)」、「生涯学習能力(Q10)」、「倫理観(Q11)」、「異文化等の理解(Q13)」が入っていた。「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」や「専門知識や技能(Q7)」、「生涯学習能力(Q10)」、「倫理観(Q11)」、「異文化等の理解(Q13)」はこの群に共通して出現している。

一方、逆の場合は、学生の達成感に学科間での差が大きかったと言える。これには「人類の文

化、社会と自然に関する教養(Q2)」、「科学的論理的思考力(Q3)」、「問題発見・解決能力(Q8)」、「職業観(Q9)」が入った。2020 調査ではこの群に「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」、「自ら学ぶ姿勢(Q6)」、「異文化等の理解(Q13)」が、2019 調査では「国際人の素地(Q14)」が入っていた。共通して出現しているのは、「人類の文化、社会と自然に関する教養(Q2)」である。

4.2 学科平均値の比較による各学科の特色

2021 調査における各学科の特色は、次の通りである。

(心理臨床学科)

心臨では、学科間の比較で最高点となったものが全 14 観点中 4 つ、最低点となったものが 5 つあった。特に「国際人の素地(Q14)」は人文を除く他 2 学科と並んで最低点 2.7 であり、全ての項目のなかでも最も低い値であった（ただしそれ以外はいずれも項目平均値は 3.0 を超えている）。

2020 調査で心臨が学科間比較で最高点となった観点は「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」3.1 と「倫理観(Q11)」3.2 の 2 つであったが、今回はコミュニケーション能力(Q5)」3.2 と「専門知識や技能(Q7)」3.3、「生涯学習能力(Q10)」3.2、「倫理観(Q11)」3.3 の 4 つであった。このうち、「倫理観(Q11)」は共通して出現している。「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」は 2020 調査では学科間の差異が比較的大きい項目であったが、2021 調査では学科間差異はほとんどなくなった。

最頻値が 4（大変身についた）となった項目は、「専門知識や技能(Q7)」、「職業観(Q9)」、「倫理観(Q11)」の 3 つであった。

(人間文化学科)

人文は 2020 調査では、学科間比較で最高点となった観点が 14 観点中 10 あったが、2021 調査では 14 観点中 4 つとなった。一方最低点となったものは 2020 調査では 2 つであったが、今回は 9 つになっていた。ただしそのうち 8 つの平均点は 3.0 を超えていた。残りの 1 つ「問題発見・解決能力(Q8)」だけは平均点が 3.0 を超えず、2.9 となっており、例年全学的に低い得点に留まっている「国際人の素地(Q14)」を除くと、全ての項目の中で最も低い値であった。

最頻値が 4 あるいは 2 となった項目はなく、14 観点全てで 3 であった。

(法律学科)

法律は、学科間比較最高点となった観点が 14 観点中 6 つあり、このうち「コミュニケーション能力(Q5)」と「職業観(Q9)」は 2 年連続であった。一方最低点となったものが 4 つあり、「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」、「専門知識や技能(Q7)」、「生涯学習能力(Q10)」などが含まれるが、これはいずれも平均値は 3.0 を超えている。

最頻値が 4 となった項目は全学科中最も多く、「コミュニケーション能力(Q5)」や「自ら学ぶ姿勢(Q6)」、「職業観(Q9)」、「地域貢献意識(Q12)」など 5 つあった。

(法ビジネス学科)

2020 調査では、法ビは学科間比較で最低点となった観点が 10 と多かったが、2021 調査では法律と同数の 4 つと最も少なく、最高点となった観点は 4 学科中最も多い 8 つであった。法ビは多くの観点で獲得実感を持っていることが分かる。学科間比較で最低点の項目も、国際人の素地(Q14)」を除くと、いずれも平均点は 3.0 を超えている。

最頻値は 2 となった観点はなく、「コミュニケーション能力(Q5)」と「職業観(Q9)」では 4 であった。

(全学)

あらためて 2021 調査の全学での傾向を見てみると、2020 調査結果に比して、全学の平均値は 14 観点全てで、同値かわずかながら増加しており、減少した観点はなかった。また学科間の平均値の差異も 2020 調査が最大で 0.6 であったところが、2021 調査では最大でも 0.3 になっており、学科間の差異は減少傾向にある。

平均値が相対的に高く(3.2 以上)、最頻値が 4 となっている学科が多い観点は、2020 調査とほぼ同様に、「コミュニケーション能力(Q5)」、「専門知識や技能(Q7)」、「職業観(Q9)」、「地域貢献意識(Q12)」の 4 つであり、DP を束ねて本学が重視してきた部分と概ね合致していると言える。

全学的に学生の獲得感が得られていない観点(3.0以下)は、2020 調査と同様に「コンピュータ・情報処理技術(Q4)」と「国際人の素地(Q14)」の2つであった。このうち「国際人の素地(Q14)」は3年連続で同様の結果を得ており、本学の教育は学生に十分なインパクトを与えることができていないといえるかもしれない。

4.3 DP 項目ごとの受け止め方

各設問の回答を、6つのDP カテゴリー別にまとめて分布を調べた。図1に[2021 調査]結果を、図2・図3・図4には順に[2020 調査]、[2019 調査]、[2018 調査]結果を示す。

過去3カ年の結果では、各DPの分布の形は2つのグループに分けることができる。1つは3にモードを持ち、左に裾を引くもの(Aグループ)と今ひとつは3及び4にモードを持つもの(Bグループ)である。典型的にはDP1、DP2、DP3、DP6がグループAで、DP4がグループBである。[2021 調査]でもこの傾向は一貫していた。

DP5は[2019 調査]及び[2018 調査]ではグループAであったが、[2020 調査]ではグループBに近くなり、[2021 調査]ではDP4とほぼ同型で、グループBに含まれるようになった。

DP6は大きく分けるとグループAだが、その中でも幾分異なり、2と1の比率が比較的高く、この傾向は調査開始以降一貫している。

上記の結果は、DP4「職業観を持ち生涯学習し続ける能力を有している」の達成度は継続的に比較的高く、今回はこれに加えてDP5「倫理観を持った市民として地域社会の発展に貢献する高い意識を持っている」の高まりを見て取れる。またDP6「多様な言語・社会・文化を理解し、国際人として活躍する素地を持っている」すなわちグローバル化対応能力の達成度は、依然としてなおやや低いと学生が感じていることを示唆しているとまとめることができる。

4.4 本学の個性・特色の反映等

上記の結果から、本学がその個性・特色として標榜している事項の中で、「学生の社会参画意識を育む大学」、「地域とともに歩む大学」は、学生が獲得できたと感じていると評価できる。

また倫理観に関連する「コンプライアンスと誠実性」については、比較的高まりつつある一方、教養教育と関連する「人間力教育」を獲得したと感じている学生は、なお一部の学科にとどまり、全学的には波及していない。

平成20年度中教審答申が提起した「学士力」の中で、専門分野に関わらず求められている、「汎用的技能」のうち、「コミュニケーション・スキル」は得られたとしているが、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」が得られたかについては、学科間の差異が大きく、学生は必ずしも高くは評価していないとまとめることができる。

5. 結語

緒言にて示したとおり、2021 卒業生は現在のDPの下で編成されたカリキュラムで4年間の教育を受けた学生であった。以後、質問項目を維持しつつ継続的にモニタリングを続け、従前の結果との比較等を行うことで、本学の教育の成果と達成度に関する貴重な資料が得られると考える。

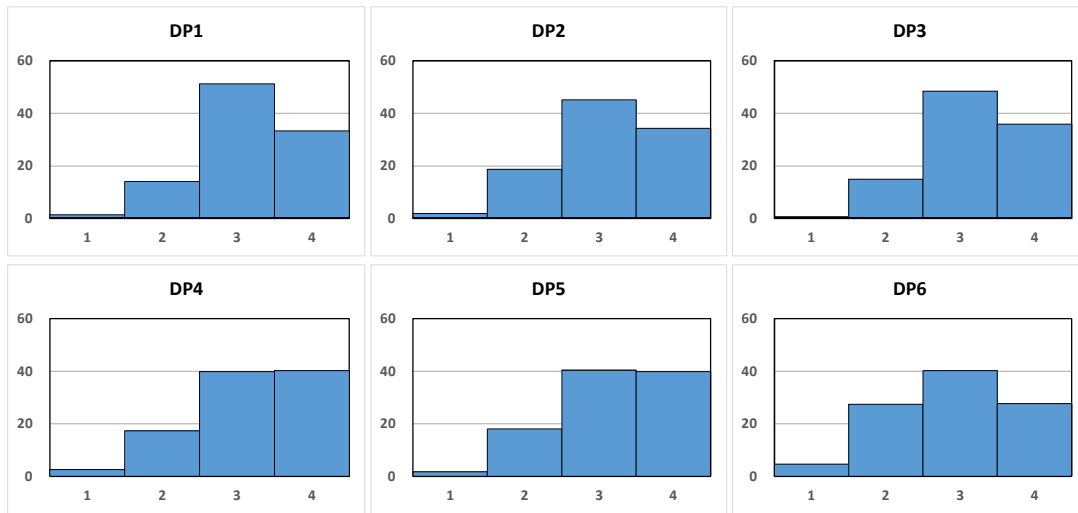


図1 GP カテゴリー別の回答の分布 [2021 調査]

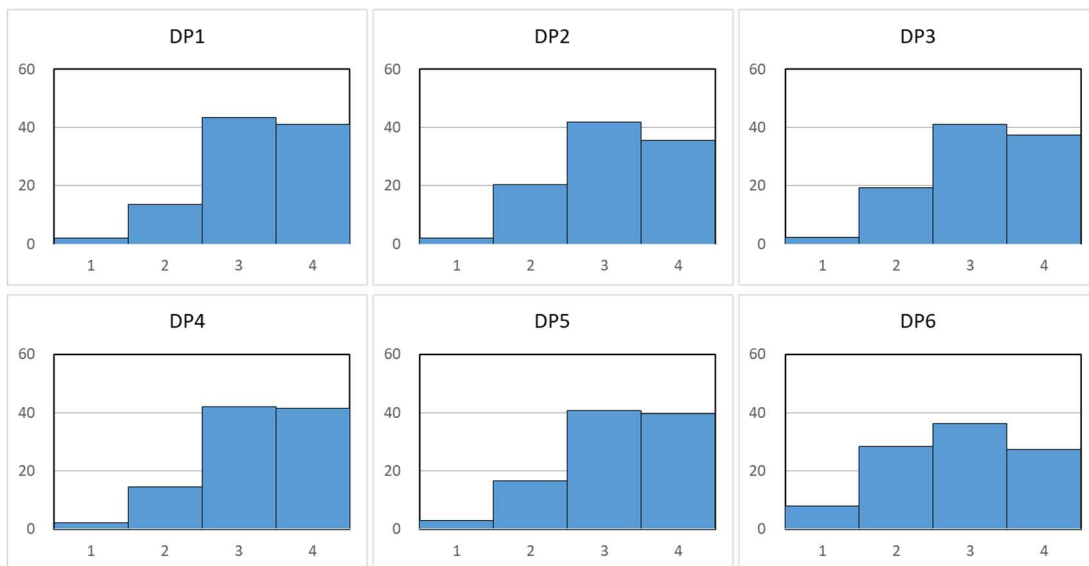


図2 [2020 調査]

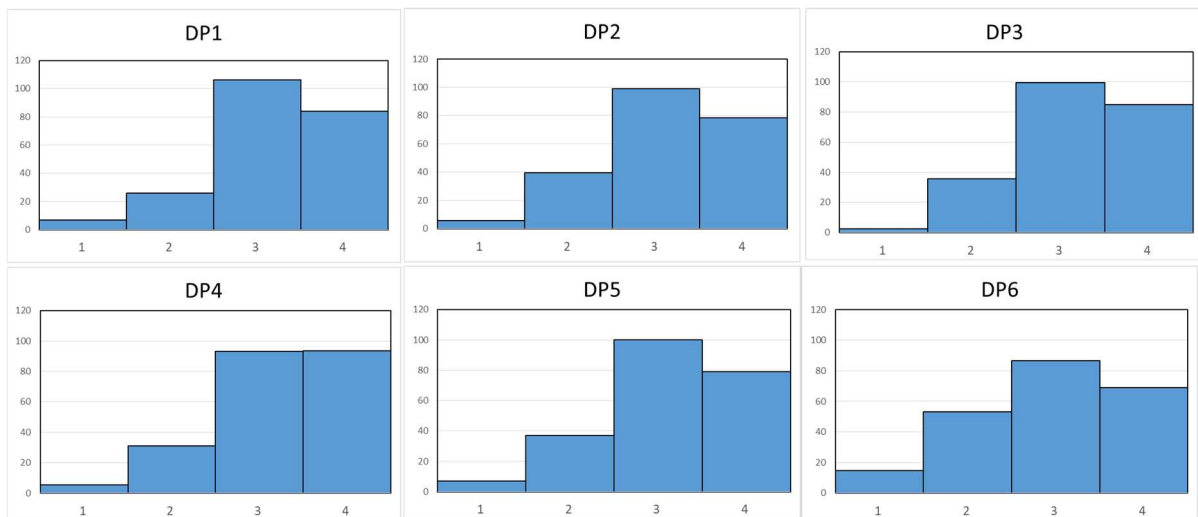


図3 [2019 調査]

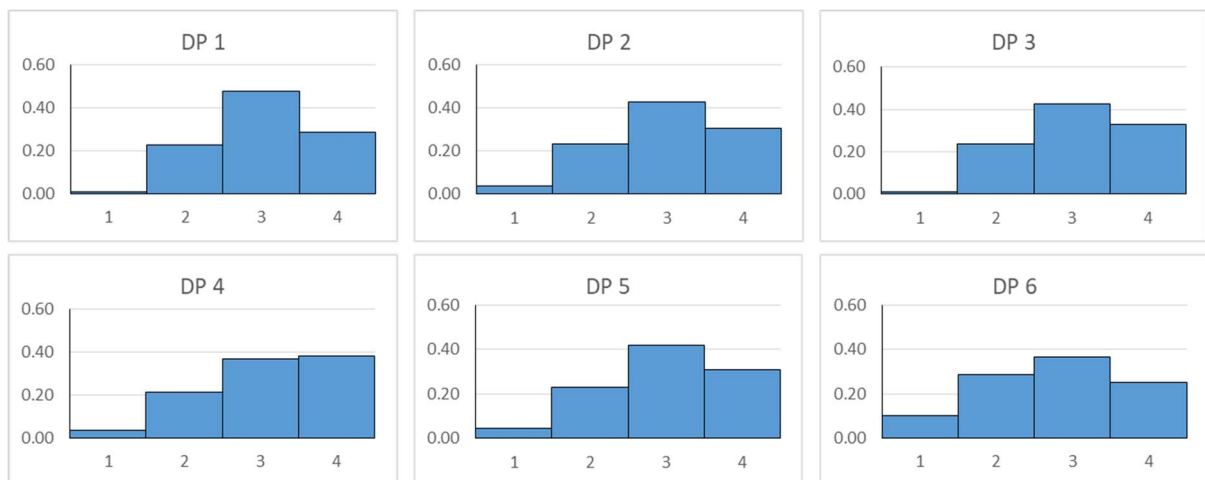


図4 [2018 調査]

【付録】

志學館大学のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は建学の精神「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」に従い、その教育目標を実現することを目指し、以下に掲げる資質・能力を修得した者に学士の学位を授与します。

- 1 個性的かつ堅実な人間性、自主性、創造性が身につけている。
- 2 人類の文化、社会と自然に関する豊かな教養と科学的・論理的思考法、情報処理技術、コミュニケーション能力を身につけ、自ら学ぶことの喜びを知っている。
- 3 実践的で体系的な専門的知識と技能を身につけ、総合的な問題発見・課題解決能力を持っている。
- 4 職業観を持ち生涯学習し続ける能力を有している。
- 5 倫理観を持った市民として地域社会の発展に貢献する高い意識を持っている。
- 6 多様な言語・社会・文化を理解し、国際人として活躍する素地を持っている。